

平成26年度 上越市保健体育部 活動報告

部長 竹内 修一

1 はじめに

生涯体育につなげる観点からも、体力の向上や心身の健康の保持増進には、児童生徒が自ら進んで運動に親しもうとする意欲や態度が不可欠である。児童生徒に望ましい力を身に付けさせるために体育授業の果たす役割は大きく、体育授業の一層の充実が必要である。そのためには、今後更なる指導内容・方法の検討を重ね、指導力の向上を図らなければならない。保健体育部会では、授業研究を研修の柱に据え、研究主題に向け、研鑽を積んでいる。

2 研究主題

主体的に考え、運動に進んで取り組む児童・生徒の育成



3 研究の実際

<公開授業> 『キーワード……主体性の育成』

- 単元名 ゴール型ゲーム「ハンドボール型ゲーム」第4学年
- 本単元と研究主題とのかかわり（研究主題に迫るための手立て）
 - ①学習過程の明示、学習の場の視覚化（授業のUD化）
 - ②両側からシュートできるゴールの活用
 - ③児童一人一人に役割をもたせる工夫
 - ④試合を中核にした授業展開
 - ⑤作戦を記録していく学習カードの工夫

(1) 全体協議 <公開授業での意見交換内容>

<授業者>

チームを大切にしたいや運動に苦手意識のある児童にも活躍の場をあたえることを大事に授業展開してきた。そのため、自分の役割を考えて活動できた。今後も振り返りカードを有効活用し、運動に苦手意識をもつ児童の意識を大切に扱っていきたい。

<参加者>

- ①手立てが工夫された授業であり、児童がよく考え動いていた。
- ②個々の役割を重視した授業であった。ゴールの大きさ、置き方、ボールの大きさ等適切であった。
- ③作戦会議、板書、作戦ボード等、授業を展開する上で、ユニバーサルデザイン化が意識されていた。

(2) 研修会での指導<上越教育大学 土田了輔 教授>

- ・「ボールゲーム」で大切に指導してほしいことは、児童自らが動きを考え、次のゲームに活かすこと。つまり「傾向と対策」を常に教師が保障してやる場面が重要である。その場面が本授業で見られた。
- ・「役割の取得」の観点では、チームとして逆サイドを使う作戦やキーパーの立ち位置が、単元が進む中でよりよいものになっていく様子を見て取ることができた。
- ・さらに、その役割が変化することも重要な要素である。自分の役割を行う中で、自分がもっとこれができそうだと判断することである。ボールゲームにおいては、「判断」することも大事なスキルである。

(3) 実技講習 「集団行動……児童生徒の能率性や安全を考えて」

中学校の教員が講師となり、整列・方向転換・列の増減の正しい指示の出し方について学び合った。講習の中で大事なポイントとして扱われたことは、「予令」と「動令」である。「集団行動の合図はこの二つで構成されているが、日々の教育活動では曖昧になっている部分であることを、この研修を通して再確認することができた」という声が聞かれた。小中連携の観点からも、小学校でも正しい号令のもと、基本的な集団行動をきちんと指導し、中学校へ進学させることが大変重要である。



4 終わりに

運動領域の傾向として、近年学校現場では二極化が進んでいるとの指摘がある。この研修会を通して、小学校と中学校が課題を共有し、研修を深めていくことで「できた喜び」を一人でも多くの子どもたちが味わい、生涯に渡って運動に親しむことができる子どもたちを育てていきたい。